

8月・9月の進路・学習目標

1 年 次	学習への 意識を高めよう	学習と部活の両立が難しくなってくる生徒も出てきます。授業を優先し、課題を確実に提出できる習慣を作りましょう。前期の復習をして、苦手意識を持たないようにしよう。
2 年 次	「将来の自分」 について考えよう	興味・関心あることを活かしていける職種について調べたり、進学先を検討したりして、自分の進路を具体化していこう。また、それらの基礎となる教科や学習内容を意識しよう。

激変する「成績が良い」の基準

※以下の内容は「Newsweek日本版」の記事(2022. 8. 15付)を引用して作成しています。

「GIGAスクール」という言葉を耳にしたことがあると思います。コロナ禍で一気にICTの活用が進んだので、そのような文脈で捉えられる印象が強いのですが、GIGAとは「Global and Innovation Gateway for All」の略で「グローバルな技術革新への登竜門を全ての子どもたちへ」という意味になります。つまり、GIGAスクールではICTの活用はもちろん、「教師が学習内容を一斉に教える」これまでの学習から、アクティブラーニングに代表される「生徒が自ら問いを設定して協働しながら学ぶ」という学び方が主流となり、急速に変化する世界で活躍できる人材を育成するということになります。この変化は、結果的に「成績が良い人」の基準がこれまでとは大きく変わるということを意味しています。これまでは、先生が教えてくれる「正解」をできるだけたくさん覚えた生徒が「成績が良い」生徒でした。しかし、これからのGIGAスクールでは、成績が良い子の基準は次のようになります。

- ・問題を発見できる子
- ・その問題をプレゼンできる子
- ・正解があるかどうか分からない問題の正解を求めて探究できる子
- ・探究の結果をプレゼンできる子
- ・プレゼンを聴いて、質問のできる子
- ・自分の考えを積極的に述べてディスカッションできる子

We can do it!!



大学入試を取り巻く環境も劇的に変化しています。特に「総合型選抜」や「学校推薦型選抜」の重要性が増しています。端的に言えば、中高生時代に何に興味関心を持って、どんな研究や活動をしていて(どんな実績があつて)、大学でどう学びたくて、将来はどのようにになりたいか(社会に貢献できるか)を自分の言葉でプレゼンできる学生を大学も求めているということです。総合型選抜は上記のような基準で書類やプレゼンなどの試験を通して可否を判定する入試です。東北大学の報告では、総合型選抜で入学した学生の方が一般入学の学生よりも入学後の学習意欲が高いという結果が出ており、各大学が力を入れはじめています。

本校で取り組んでいるGCPや未来探究の授業、様々な行事などは、ここで挙げられている力を身に付けることができるプログラムです。先生たちは生徒の皆さんの「やってみたい」を全力で支援していきたいと思っています。ぜひ、何事にも「やってみよう」という前向きな気持ちでチャレンジして、将来につなげていって欲しいと思います。

WE CAN DO IT!! 生徒の活動について紹介します！

IBARAKIドリームパス

茨城県が主催している中高生向けの探究コンテストです。勝田高校生と勝田中等生が協働しながら、エントリーのための企画書を作成しました。中等生もアンケートやインタビューを行い課題を設定するなど、充実した学びとなりました。中等3チーム、高校4チーム、中高合同1チームがエントリーしました。

職場体験(2年次)

2年次生が夏季休業中に職場体験を行いました。本校として初めての行事であり、コロナ禍での実施ということで心配な面もありましたが、50以上の事業所様にご協力いただき、充実した学びの場となりました。学校ブログや本通信の次号で改めて紹介したいと思います！



編集長のつぶやき

今年の夏は、初めての家族キャンプに挑戦しました！テントを上手く設営できるか・・・暑さ対策は大丈夫か・・・などなど最初は色々不安でしたが、やってみたら意外と大丈夫でした！何でもそうですが、やってみて初めて分かる事って多いですね！Take a first step! 一歩目を踏み出すことが大事ですね！